



4

April



# 俳句

( 2 0 2 3 )





たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句	目次
10	5	1	
）	）	）	

### <卯月>

卯の花が咲く月「卯の花月（うのはなづき）」を略したもの。

十二支の4番目が卯（うさぎ）なので「卯月」いわれるようになったという説もあります。

季節：晩春（ばんしゅん） ※清明から立夏の前日まで。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

鶯鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

正義だけそれは偽善だ四月馬鹿  
伸び伸びて踊る葉牡丹四月馬鹿  
ブログなど書きたくない日四月馬鹿  
寅さんはいつもホラ吹き四月馬鹿

パソコンの買い換え時か四月くる  
早や四月ぶつぶつぶつとブログ書く

吾の句は才能無しと木瓜の花

信じたるなにもなければ夜桜へ  
霊園の夜桜を見るお化け見ず

春の朝朝礼一番パワハラか  
登園を拒否しのけぞる春の朝

ヒヤシンスわずかな悪意漂わす



よういどん数え切れな  
いチューリップ  
人間の評価に顔がチュ  
ーリップ  
体系はアンバランスに  
チューリップ  
これ以上赤くならない  
チューリップ  
チューリップ大胆すぎる  
虚栄かな

花を見て安全保障核兵器

フリージア池袋夜煌めいて

フリージア銀座のクラブ  
涙あり

きんせんか一輪だけの硝子瓶

マンションの窓のゆがみし春の月

春の月昨日も今日も明日もまた

春の月政治家何時も嘘をつき

耳奥を掃除をすれば春の月

ほろ酔いで居酒屋出ればおぼろ月

猫が見る犬も見ている春の月



それぞれに爪先立ちに春の星  
春満月少し人生飽きた頃  
春満月昭和歌謡で一人酒  
春満月宗教自由に祈る

こでまりは呑気に密に今年また  
坐禅草腹の虫など食べてくれ

しやぼん玉天下国家のむなしさよ  
霊園でだれが飛ばすかしやぼん玉

今年また帳尻あわせ桜散る  
リベラルの言葉賤しく桜散る

心奥鬼が住みけり飛花落花  
花大根人が佳きこと取り柄なり

ジャズ聴いてなにか不穏や春愁



春愁や男の着けるイヤリング  
春愁や爪を切るのに難儀して

桜薬降る病院の非常口  
降るほかはなき定めかな桜薬

あちこちにモスクも増えて葱坊主  
朧夜や東京すべて異空間

忘れな草親も忘れて東京へ  
勿忘草忘れることも美徳かな

秩父にて少しせわしくバス遍路  
プライバシー忘れてしまえ亀鳴きぬ  
ブログ書くほどほど励め亀鳴きぬ

日本人日本語忘れ松の花  
春は逝くお菓子パンダの三時かな



昭和の日ジュークボックス鳴り響く  
テレビなど叩いて直す昭和の日

瀬戸の海潮の香だんだん夏近し  
感情線だんだん薄く夏隣



モロク俳句

不器用に生きてモロク四月馬鹿  
モロクし雲は流れて四月馬鹿

モロクし四月で話す事もなく  
四月には魚も愚かにモロクす

モロクし寡黙一念木瓜の花  
モロクし単純がよし桜草

モロクし気持ちはいつも花曇り  
モロクしすべて無防備桜花

かぎろひて崩れさりしかモロクす  
かぎろふや義歯もかぎろいモロクす  
モロクし陽炎にさへつまづいて



モーロクし見栄を積み上げ花しきみ  
モーロクし食べて生きてる蝶々かな

モーロクし眠るも死ぬもうららなり  
モーロクし未来凶捨てて春夕焼け  
春夕焼けしらけるだけだモーロクし

モーロクし食べて散らかし春の雲  
後期高齢すでにモーロク春の雲  
モーロクし惰性と怠惰花蘇芳

モーロクし見ざる聞かざる花の闇  
モーロクし余命伸びしろ亀が鳴く  
モーロクし孤独の亀の鳴いている  
亀鳴くや用事そのまま日モーロクす  
モーロクし桜散る日に考える  
モーロクし人生余録桜散る  
モーロクし能なしわれへ花吹雪



モーロクし胸襟閉じる飛花落花  
モーロクは世の必然に飛花落花

花筏モーロク進み崩れゆく  
生きてゆく果てにモーロク花筏

モーロクし何を企む菜種梅雨  
たまたまに生まれモーロク春の闇  
老いふたりモーロク進み春の闇

モーロクし何の葉つばか菜飯食ふ  
菜飯噴くモーロクすれど水加減

リラ咲けど心空つぽモーロクし  
モーロクしモーロクの友ヒヤシンス

さくらしべモーロク人生降りかかる  
桜しべ降るモーロク車椅子



モーロクし自愛か怠惰夏近し  
春の夜やモーロクすれば死は甘き  
春の夜や桜に明けてモーロクす

モーロクしされど春愁に包まるる  
春朽ちて我もモーロク朽ち果てる  
春朽ちて我も朽ちたりモーロクす  
春朽ちて闇は闇なりモーロクす

モーロクし顔はもちろん竹の秋

モーロクし大往生か朝寝して  
モーロクし面倒忘れ朝寝かな  
モーロクしここはあの世か朝寝して  
モーロクしされど命の朝寝かな

モーロクし心疲れて四月尽



たべもの俳句

スープパスタあさりと野菜具だくさん  
はっさくでさっぱりサラダ胸肉と

アスパラをイカとあわせて塩炒め  
香りよくウドのきんぴら箸すすむ

豚バラとスナップえんどう卵とじ  
さわら焼きアンチョビソースレモン添え

手羽元を土鍋でポトフ花の雨  
でこぼこのそれが愛嬌デコポンや

春野菜ごろんと切って鶏煮物  
春野菜豚肉合わせみそすきに



アスパラをたっぷり散らしちらし寿司

春きやべつチンし即席甘酢漬け  
梅肉をつかってナムル春キャベツ  
皮で巻く肉巻き餃子春野菜

いなり寿司グリーンピースでアクセント  
学食のカレー大盛り新入生

豚肉を焼いてねぎだれ春の宵  
天むすのテイクアウトや春うらら

トーストに孤独を乗せて花吹雪  
ハンバーグトマト煮込みに桜散る

桜えびかき揚げ蕎麦で蕎麦屋酒  
春野菜甘みを生かし肉じゃがに



おむすびは万能であり春ならん  
しじみ漬けピリ辛醤油がやみつきに

目玉焼目玉真ん中春の朝  
花は葉に栄養ドリソク一気飲み

旬野菜彩りまとめ春酢豚  
塩ラーメンレタスタっぷりヘルシーに

ヨーグルト我溺死する春の闇  
ヨーグルト蝶は食べるか未来都市

炒飯の絶妙焦げ目夏近し





